

Xmas Campaign 2024

今年のクリスマスは、子どもたちに「希望」というプレゼントを、贈りませんか？



World Vision News No.204

World Vision
この子を救う。未来を救う。

World Vision News

希望を、贈ろう。

クリスマスキャンペーン2024 はじまります

希望を、贈ろう。

1 問題への根本的アプローチで未来を救う チャイルド・スポンサーシップ

1日約150円の継続支援で、暴力や貧困の連鎖を断ち切り、救える未来があります。動画や写真で成長を見守ることができます。
※毎月4,500円 ※女の子のご支援を希望の方は、申込フォームのメモ欄に「1000GIRLS」と記載をお願いします。

▶ Webから申し込む



▶ お電話で申し込む

03-5334-5351
(平日10:00-17:00)

2 失われていく命を、諦めない クリスマス募金 (水・食糧支援)

ご希望の金額でご支援いただけます。今、子どもたちの命を守る食糧を贈り、未来を変えていくため、皆さまのお力を貸してください。



3 支援の輪を広げる お友達に紹介する

皆さまがご紹介くださることを通して、世界の子どもたちの状況を知り、支援にふみだしてくださる方がいます。ご協力をお願いします。

4 SNSで応援

あなたの「いいね！」やシェアが、まだ知らない誰かの目に止まり、興味を持つ人が増えていることが、世界を変える力になります。まずはフォローやお友達追加、ぜひお願いいたします。

FACEBOOK
@worldvisionjapan

X
@WorldVisionJPN

Instagram
@worldvisionjapan

LINE
LINE



5 もっと！世界のことを知る

世界の様々な国の文化や風習、スタッフが訪れて見て聞いて感じた支援地域ごとの実情や課題についてなど、様々な情報をお届けしています。ぜひご覧になってください。



様々な形でお寄せいただく温かいお気持ち・ご支援が、世界を変える一歩となっています。心より感謝申し上げます

World Vision News No.204 2024年10月発行 ワールド・ビジョンニュース

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン
〒164-0012 東京都中野区本町1-32-2ハーモニータワー3F TEL 03-5334-5351 FAX 03-5334-5359
dservice@worldvision.or.jp www.worldvision.jp

ワールド・ビジョン・ジャパンは、キリスト教精神に基づき世界の子どもたちを支援している国際NGOです

World Vision
この子を救う。未来を救う。

特集1：希望を、贈ろう。
今年のクリスマスは、子どもたちに「希望」という贈り物を

特集2：奇跡の国、ルワンダ
悲しい歴史を乗り越え、取り戻した希望と未来

特集3：未来への希望の種をまく
世界を知り、考える。
真の「グローバルキッズ」たちが築く未来とは

204

2024年 冬号
ワールド・ビジョンニュース

希望を贈ろう。

ワールド・ビジョン
Xmasキャンペーン2024

終わらない紛争。
猛威を振るう自然災害。
明日の見えない貧困。
今この瞬間も、たくさん子どもたちが
過酷な環境の中で生きています。

私たちは、諦めたくありません。
失われていく命も、理不尽な現実も。
一歩先の明日も、何十年先の未来も、
それを変える力は私たちの中にあるのだから。

今年のクリスマスは、
彼らに「希望」という贈り物を。
一夜にして世界を変えることはできないけれど、
一人の子ども未来を変えることはできます。
そしてあなたには、その力があります。

World Vision

この子を救う。未来を救う。

クリスマスキャンペーン2024スタート

子どもたちの未来に、希望を。11月1日から12月26日まで「クリスマスキャンペーン」を実施します。次頁では、子どもたちの命を救い未来を変えていくために、皆さまとともにワールド・ビジョンが実施している取り組みをご紹介します。



チャイルド・スポンサーシップ

この子の未来を、諦めない

子どもたちへの教育や、地域の慣習・環境に働きかけによる、中長期的な取り組みを行います。

1000 GIRLS

希望をください。

早すぎる結婚、性的搾取、暴力。
理不尽に怯えながら暮らす少女たちがいます。
少女たちの未来に、希望を。
あなたには、その力があります。

クリスマスまでに1000人の少女に希望を、贈りたい。

「1000GIRLSプロジェクト」として、1000人の少女のチャイルド・スポンサーを募集します。

わずか8歳で見知らぬ男性と結婚させられた少女、ルスちゃん(ケニア)

勉強や友達と遊ぶことが大好きだったルスちゃん。しかし、彼女の子ども時代は、わずか8歳で突然終わりを告げます。この地域を襲った干ばつの影響で、食料も、牧畜による収入も尽きてしまったルスちゃん一家。家族を養えなくなったお父さんは、幼い娘を結婚させることを決めました。

ルスちゃんは見知らぬ年上の男に連れていかれ、料理や水汲み、牛の世話をし、泣きながら眠りにつく日々が始まりました。学校に行き、将来を夢見ること、もうできません。

「とても悲しかった。泣いて、助けてくれる人に出会えるように祈りました」



ルスちゃんのように、厳しい暮らしの中において、女の子は特に厳しい立場へと追い込まれてしまう現実があります。

「1000GIRLSプロジェクト」では、女の子たちの「恐怖」を「希望」に変えていきます



1. 暴力を止める

児童婚や家庭内暴力、女性器切除（FGM）など有害な慣習を変えられるよう地域全体に啓発を行います。さらに、「暴力はあたりまえでない」と知った女の子たちが、地域の他の女の子の現実を変える原動力になります。



2. 教育への道を拓く

女の子が学校に行けるように家族や地域に働きかけます。早すぎる結婚や家事の負担、家族の貧困、学校のトイレの未整備など女の子を教室から遠ざける要因を取り除き、性別を理由に未来が閉ざされることのないよう支えます。



3. 貧困の連鎖を断ち切る

教育を受けることで、将来の収入が増加します。女の子自身が貧困から抜け出すことはもちろん、家族やコミュニティ、さらには将来の子どもにまで、教育、収入、健康などの面で良い影響をもたらし、世代を超えた負の連鎖を断ち切ります。



4. 自信を引き出す

チャイルド・スポンサーの存在は、女の子にとって「希望」であり、大きな「自信」となります。交流を通じて遠くから自分を応援してくれる人がいることは、厳しい環境で生きる子どもたちから「困難に立ち向かう力」を引き出します。

1000人の女の子の支援にご賛同くださる方はコチラから ▶



クリスマス募金(水・食糧支援)

失われていく命を、諦めない

今、命を守る食糧を届け、子どもたちの未来を「希望」あるものへと変えていきます。

世界の未来を創るのは今を生きる子どもたち。

世界で5歳を迎える前に亡くなる子どもは、一日で13,400人。そのおよそ45%は、十分に食べられず、重度の栄養不良で衰弱したことが原因で命を落としています。

成長期の子どもたちにとって、食は、命を守り、身体や知能の発達を促す大きな役割があります。ワールド・ビジョンは、すべての子どもたちの健やかな成長のため、食糧支援に取り組んでいます。

クリスマス募金はコチラから
お好きな金額でご寄付いただけます ▶



上腕計測メジャーで、栄養不良と診断されるアシャちゃん(ソマリア)



奇跡の国、ルワンダ 悲しい歴史を乗り越え 取り戻した希望と未来



民族同士の殺りくを逃れ、隣国のコンゴ民主共和国へと避難した人々。ジェノサイドによる難民の数は、約300万人に上りました（1994年）

アフリカの小さな国、ルワンダ。安定した政治と近年の急速な経済発展から、『アフリカの奇跡』と呼ばれる一方で、民族の対立によってわずか100日の間に国民の10人に1人にあたる80万人が命を落とすという、悲しい歴史を持つ国でもあります。兵士のみならず、一般市民までもがナタを持って殺し合った史上類を見ないジェノサイド(大虐殺)は、人々に深い悲しみと傷を残しました。その後ワールド・ビジョン(WV)はルワンダに事務所を設置。壮絶なジェノサイドを生き延びた人々の「心の平和」を後押しする支援を始めました。



『平和の木』と『希望の種』

加害者と被害者は、その多くがジェノサイド収束後も同じコミュニティで暮らしています。大切な人の命を奪い、奪われた者同士が隣人として生きていかなければならない——そんな残酷な現実に向き合う人々を支援するため、WVが実施するのが「平和の木プロジェクト」です。これは被害者と加害者がお互いの家にオレンジの苗木を植え合い、自分が植えた木の世話をするというもので、相手の家に毎日水やりに行き顔を合わせ、言葉を交わすことによって少しずつ互いの心情を理解し、和解へと向かっていきます。もちろんこの取り組みに参加したからといって、犯した罪や大切な人を奪われた悲しみが消えることはありません。それでも和解のために人々が努力を続けるのは、「憎しみを次世代に残したくない」という強い思いがあるからです。こうした願いが未来への「希望の種」となり、平和の木とともに育まれていきます。

◀ジェノサイドで家族を殺害されたローズさん(仮名)と、その加害者であったパトリックさん(仮名)。足元に育つ「平和の木」とともに

『奇跡』の陰で取り残された人々の切なる願い

近年目覚ましい経済成長を遂げているルワンダ。しかし、その『奇跡』はすべての人に行き渡っているわけではありません。例えば同国東部に位置するニャガタレ郡は国内でも最も貧しい地域の一つで、住民の約4割が1日あたり約47円以下で生活しています*。子どもたちが健やかに成長し、教育を受け、希望をもって生きること、それがジェノサイドを乗り越えた人々の切なる願いであり、WVは様々な支援活動を通じてその実現を目指し、今日も現地希望の種をまいています。

*World Bank Group, Poverty & Equity Brief (2023年)より算出

チャイルド・スポンサーシップの支援を通じてニャガタレ地域で実施する活動の一例



乳幼児の栄養改善



農業技術の指導



給水設備の建設



学校の建設



チャイルドに会える!

支援地訪問ツアー再開のお知らせ

“地球あちこち〜ルワンダを知る旅”編

新型コロナウイルスの流行に伴い長らく中断していた支援地訪問ツアーを、ルワンダの地を皮切りに、いよいよ再開いたします。支援が始まって間もない地域や、間もなく支援を終了する地域への訪問を通して、現地の状況、支援の成果をご確認いただき、また、チャイルドと会って豊かな時間をお過ごしいただければと思います。

📅 期間：2025年3月15日(土)～3月23日(日)9日間
 👥 最小催行人数：15人(定員：20名予定)

※日程は変更の可能性があります。
 ※参加はチャイルド・スポンサーとご家族に限らせていただきます。
 ※訪問国の治安状況等により、ツアーが中止になる場合があります。
 詳細は決まり次第、ホームページやEメールでご案内いたします。



2017年ルワンダ支援地訪問ツアーの様子

未来への希望の種をまく ～世界を知り、考える。真の「グローバルキッズ」たちが築く未来とは～

子どもたちこそが、未来への希望

「世界の友達を大切に、自分にできることを考え、行動する姿勢を持った『グローバルキッズ』」。これが、私たち WVJ が日本に暮らす子どもたちに願う姿です。イベントやチャイルド・スポンサーシップによる交流等を通して、遠く離れた国に暮らす友だちの暮らしに触れ、世界で起こる様々な出来事に関心を持ちたり、調べたり、そして自分の頭で「なぜ? どうして?」「自分にできることは何?」と考える。そういった広い視野で世界を見渡し、柔軟な頭と心で考えられる子どもたちこそが、これから先の未来と世界を変えていく存在であると信じ、日々活動を行っています。子どもたちこそが、未来への希望そのものなのです。

〇× クイズ、
せいかいは……

えーっと、
ニジェールはどこかな

おもしろい～!
お父さん、
手伝って～!

サマースクールで多くの Newグローバルキッズ誕生

さて、そのような願いをもって展開しているグローバル教育プログラムの一環として、WVJ では、毎夏、「WV サマースクール」を開催しています。今年は小学生と保護者を対象に、オンラインイベントと対面イベントを開催し、のべ274組602名の親子に参加いただきました。オンラインイベントでは、バーチャルでケニアの子どもたちの家や学校を訪問し、水・衛生課題に目を向けました。対面イベントでは、途上国の子どもたちが電気、水道、ガスがない生活をしていることを学んだのち、実際に水汲みに使っているタンクを持って歩いてみる体験が行われ、どのお父さんも、興味深い様子で、真剣に話を聞いたり活動に取り組む姿が印象的でした。

グローバルキッズのご紹介 ～K君のおはなし～

「週末の外出ランチを減らせば 4,500 円 (チャイルド・スポンサーシップの1カ月あたりの金額) になる」と K 君から言われ、支援を申し込むことに決めたという O さん。顔の見える支援という点にも魅力を感じたそう。実際、支援をするチャイルドがわかった時、K 君は「僕と同じ4年生の男の子だ!」と喜び、さっそくチャイルドへ手紙を書いたそうです。「手紙や写真のやり取りができて、子ども自身が寄付をしている実感を持ちやすいようです。」そんな K 君は、4年生でサマースクールに参加したことで、世界の子どもの現状に驚き、その様子を夏休みの作文に書いたほどだったそうです。一緒に参加したお友達のお母さんからも「好き嫌いをして食べ残していたのに、サマースクールに参加してから変わった」と喜びの声が寄せられました。その後、K 君は英語でお手紙を書くことにも挑戦し、チャイルドの住む国を地球儀で確認したり図書館へ行って本で調べたり、世界への関心が高まりニュースを見ることも増えました。紛争や災害の影響を受ける子どもたちを心配する気持ちも芽生えたといえます。そして、現在、大学生になり、ワールド・ビジョン・ジャパンでインターンをしていただき、さらに世界にはばたいています。「チャイルド・スポンサーシップを始める前までは、世界で起きていることに自分には関係ないという様子でしたが、自分が同じ立場だったらと考えることができるようになったのは大きな変化だったと思います。」と、O さん。お父さんがどうしたら問題を解決できるか考えるようになったことに驚きと喜びを感じたと、当時を振り返って話してくださいました。



サマースクールに参加し発表をする小学4年生当時のKくん(右)

参加者の皆さんから寄せられた感想の一部をご紹介します。

18kgのバケツを持って6km歩くのは難しいと思いました。私より小さい子が運んでいてすごいと思いました

4年生

日本は世界の中でも恵まれた国だということを知りました

3年生

知らない世界に触れるという意味で、とても刺激的で有意義な時間になったように感じます

保護者

きびしい生活をしている中でも、少しでも笑顔になってほしいです

4年生

WVJ では、たくさんの「グローバルキッズ」が誕生していくことを願い、今後もお子さまが世界とつながっていけるような催しやコンテンツを提供してまいります。

「世界のお友達とつながる」というクリスマスプレゼントを!

チャイルド・スポンサーシップは、支援するチャイルドを増やす際に、お子さまのお名前、チャイルドとのお手紙交換などをしていただくことも可能です。チャイルドと手紙の交流を通して、世界とのつながりを感じ、お子さまの世界への興味や関心が広がります。支援をしたい国やチャイルドのおおよその年齢などをご相談いただき、なるべく意向にそえるようご対応いたします。クリスマスに、お子さまに「世界のお友達とつながる」というプレゼントはいかがですか。ご家族皆様のご支援のお申し込みをお待ちしております。

チャイルド・スポンサー
シップへの申し込みは
こちらから



チャイルド・スポンサーの「マイ・ストーリー」

今回ご紹介するのは、石川県で会社経営をされている若松典子様のお話です。
2007年からチャイルド・スポンサーとしてご支援をいただき、バングラデシュ支援地域訪問ツアー参加後は、ご自身の想いを伝え、チャイルド・スポンサーシップを広めてくださっています。



私とワールド・ビジョンとのご縁は、出張先の地下鉄の中刷り広告から始まりました。涙目ながらも澄んだ目をした子どもの写真が忘れられず、チャイルド・スポンサーに登録しました。バングラデシュを訪問し、チャイルドに会うことも叶いました。彼が大人数の中から私を探し、一目散に飛びついてきてくれた時のぬくもりは、今も忘れません。共に支援地を訪問した仲間とも交流が続き、今もその「バングラ友」とは数年に一度会って、お互いのチャイルドの話に花を咲かせています

2011年の支援地域訪問ツアーにてチャイルドと若松さま



1月9日には若松様のご紹介で七尾市長の茶谷義隆様から子どもたちを取り巻く状況を伺うことができました

今年1月の能登半島地震発生時には、すぐにスタッフにご連絡くださり、初動調査に大きなご協力をいただきました。『いち早くに現地入り下さいましたスタッフの方々の迅速な行動や温かなお心に接し、胸がいっぱいになりました』

「チャイルドたちのために…」遺贈寄付のストーリー



「遺贈」とは、遺言によって財産の一部またはすべてを、特定の個人や団体に無償で譲与することです。ご生前中、チャイルド・スポンサーとして支援くださっていたAさま（女性、60代）。遺言書を作成され、遺贈先にワールド・ビジョン・ジャパンを指定してくださいました。

遺贈は、亡くなった時に支援しているチャイルドを引き続き、優先して支援できるように役立ててほしいです

(Aさまの遺言書より)

チャイルドのことを想ってくださる温かいご遺志を尊重し、ご遺産はAさまのチャイルドを含む世界の子どもたちへの支援のために、大切に役立たせていただきます。

“人生の証”である大切なご遺産を、子どもたちのより良い未来につなげるために、ぜひワールド・ビジョン・ジャパンにお手伝いをさせてください。

パンフレット（無料）のご請求・お問合せはこちら

TEL: 03-5334-5355 (平日10:00-17:00)

Eメール: donation@worldvision.or.jp

領収証 2025年1月20日に発送予定です

2024年1月1日から2024年12月31日までに当団体が受領したご支援金の領収証を発行します。郵便配達状況により、お手元に届くまで日数がかかる場合があります。1月末頃までお待ちいただけますようお願いいたします。



領収証イメージ

2024年領収証に含まれるご寄付

- クレジットカードのご利用
JCB、AMEX、ダイナースクラブ：2024年10月末日まで
VISA、MASTERCARD、セゾンカード：2024年11月末日まで
- コンビニエンスストアからのご送金
2024年12月10日まで
- 口座振替のご利用
2024年12月のお引落とし分まで

上記以降の寄付は、翌年の領収証に含まれます
送金履歴はマイ・ワールド・ビジョンでご確認いただけます

寄付金控除は確定申告で

当団体は東京都より「認定 NPO 法人」として認められており、皆さまからのご支援金は、確定申告によって税制上の優遇措置が受けられ、最大 40% が控除されます。

⚠ 年末調整では寄付金控除等を受けることはできません

領収証についてのよくある質問はこちら



住所変更 お引越された方、ご予約がある方はご連絡ください

チャイルドからの手紙や成長報告、領収証など、大切な郵送物を確実にお手元にお届けできるよう、登録情報の変更がある方は事務局にご連絡ください。2024年領収証は、12月20日までにご連絡いただいたご住所にお届けします。

登録情報の変更はこちら



【重要】クレジットカードのセキュリティ強化のお知らせとカード情報更新のお願い

クレジットカード利用の安全性を高めるため、カード会社によるセキュリティ対策が強化されています。毎月継続のカード決済でも、都度の認証が行われ、カードの有効期限の更新等によりご登録のカードを利用いただけなくなることがあります。カード情報の更新が必要とされた方には、毎月20日頃にご連絡いたしますので、ご案内の期限内に、カード情報を更新いただけますようお願い申し上げます。

送金履歴の照会/クレジットカードの登録情報の変更はこちら



世界に思いをはせて

Vol.15. 事務局長 木内(きない) 真理子



みなさんは、「環境問題」と「貧困」では、どちらの解決を優先するべきだと思いますか。いやいや、二つの課題は密接に関係しているから「どちらも大事!」と思う方が多いのではないのでしょうか。

何を隠そう、私たちがそれを実感しています。西アフリカのニジェールでのこと。ワールド・ビジョンの支援により、農民たちがほぼ砂漠化した土地を低費用かつ誰にでもできる方法で「自然再生（環境改善）」し、緑化した土地から薪や作物を得て貧困から立ち直ったことがありました。まさに「環境改善」と「貧困からの脱却」



「住民主体の自然再生」手法で再緑化したガーナ

の一挙両得です。この手法を「住民主体の自然再生」と呼んでいます。この手法を編み出したオーストラリアの同僚はこう言います。「if you love children, you love trees — 子どもたちが好きで（助けたいと思うなら）、木のことも好きになって（助けよう）」。

環境問題と貧困は表裏一体の課題。別々に捉えていては解決に至らないと気づかされた一言でした。